

## 越前町議会・令和5年9月定例会一般質問【吉田憲行議員】

(令和5年9月6日 午前10時37分 開始)

○3番(吉田憲行君) まずは今日、今朝方、大変な大雨で、先ほど報告がありましたとおり糸生地区で相当な雨が降っております。今後、町・地区一体になった復興に、また未然防止に注力していただきたいと思っております。

雨に関して言いますと、7月の梅雨前線の発生で、越前町においても川の増水、山からの濁流等により災害が発生しました。罹災された町民の皆様、また、不安を感じて一昼夜過ごされた町民の皆様に対し、この場をお借りして再度お見舞い申し上げます。災害時の復興、危険箇所の補強、また、災害に強いまちづくりを速やかに行っていくよう、これから議会を通して、議事を通してしっかり審議してまいりたいと思っております。

ただいま議長のお許しをいただいたので、通告書に基づいて一般質問を始めさせていただきます。

まず、部活動の地域移行、持続可能な部活動について質問させていただきます。

文部科学省が持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要とのことで、令和2年に学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の方向性を示していき、部活動対策の方向性として、まず休日から運動部活動を地域に移行するというを基本として、達成時期を位置づけております。そして、令和4年12月、スポーツ庁と文化庁が、公立中学校の休日の部活動を地域団体や民間事業者に委ねる地域移行を見据えた部活運営に関する指標を公表しました。そして、地域移行の達成目標は設定せずに、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すとし、各自治体で現在、地域移行に向けた改革が進行しております。

本町では、令和4年9月越前町議会定例会で越前町における教員の働き方改革と部活動の地域移行について、議員による町の考え方に対する一般質問が行われました。まず、ここでそのときの町の答弁について、進捗度合いの検証を行いたいと存じます。

国や県からは指導を踏まえ、越前町としての地域移行について、学校側の意向、保護者側への説明も踏まえ、学校側と協議し、関係者で組織する協議会を立ち上げることを早い段階で進めていくという答弁が昨年ございました。また、各種スポーツ団体等や指導者の確保に向け、運営団体の確保、費用負担の在り方等の課題に取り組むために、学校関係者や関係団体の代表者で組織する準備委員会を設置し、意見を集約していきたいとの答弁もございました。現時点において、協議会の設立、準備委員会の設置について、進捗度合いをお教え願います。

○議長(佐々木一郎君) 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長(高木剛彦君) 教育委員会事務局長、高木です。それでは、吉田議員のご質問にお答えいたします。

町としましては、休日の部活動の段階的な地域移行を進めるため、昨年10月に準備委員会を立ち上げ、協議を行いました。また、本年7月下旬に中学校1年生と2年生及び小学校5年生と6年生の保護者に対し、部活動を取り巻く現状と令和7年度までに段階的な地域移行を目標とする町の方向性について周知をさせていただくとともに、本年8月中旬には同じ保護者、児童・生徒を対象に、地域移行についてのアンケートを実施し、現在、結果を取りまとめているところでござ

います。

今後は、関係者で組織する部活動地域移行検討委員会を今月中に設置し、今回のアンケート結果や昨年7月に県が実施したアンケート結果などを踏まえながら、休日の部活動の段階的な地域移行に向けて取り組んでまいります。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） ありがとうございます。日々の教育に関する諸問題や学校再編等もあり、部活動の地域移行についての検討を行うことは大変厳しいと思います。

昨年の9月、教育長が所見を申し上げました。ここで再度お示しします。議事録のとおり読ませていただきます。

学校部活動は、共通のスポーツや文化に興味関心のある生徒による自主的、自発的な参加により、各部の顧問をはじめとした関係者の取り組みや指導の下、学校教育の一環として行われている。また、部活動は技能の向上を図る目的以外にも、生徒の自主性や協調性、社会性を伸ばし、責任感や連帯感を育むなど教育的意義が大きい活動です。本町においても、生涯にわたって主体的にスポーツや芸術に親しむ心を育成するため、部活動の充実を図り、これまで大きな教育的成果を上げてまいりました。

一方で、少子化が進展する中では、現状では学校部活動は維持できないという危機感が共有されています。そして、今後は関係者で組織する協議会の立ち上げに向け、課題や問題点、財政負担などを洗い出し、地域移行への在り方や方法については、主役となる子どもたちにとってベストな環境を整えることができるよう、本町の実情に応じた形で体制づくりを進めてまいりますということが答弁されております。

準備委員会を立ち上げたということなので、ぜひ早い段階での体制づくりをご検討願います。ここまで、先生方の働き方改革を踏まえた上での部活動改革の延長線上での部活動の地域移行についての進捗度合いを確認してまいりました。

次に、生徒側から、町の中学部活動の現状及び今後の方向性を私的観点から質問してまいります。

直近での町内4中学校の中学別部活動数、部員数をお教えます。

○議長（佐々木一郎君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（高木剛彦君） 教育委員会事務局長、高木です。それでは、お答えいたします。

令和5年9月1日現在の各中学校の部活動数と部員数をお答えいたします。なお、部員数については、3年生最後の大会等が終了し、引退した3年生部員も含めた人数としています。

朝日中学校については、13の部活動に243名が所属し、内訳として、男子剣道部6名、女子剣道部13名、男子バレーボール部14名、女子バレーボール部21名、男子ソフトテニス部31名、女子ソフトテニス部14名、男子卓球部22名、女子卓球部22名、軟式野球部10名、男子ホッケー部22名、女子ホッケー部23名、吹奏楽部24名で、うち男子2名、女子22名、美術部21名で、うち男子7名、女子14名です。

宮崎中学校については、6つの部活動に116名が所属し、内訳としては、男子バレーボール部23名、女子バレーボール部16名、女子卓球部17名、軟式野球部21名、吹奏楽部34名で、うち男子8名、女子26名、陶芸部5名で、うち男子3名、女子2名です。

越前中学校については、5つの部活動に64名が所属し、内訳としては、男子バ

レーボール部13名、女子バレーボール部13名、女子卓球部10名、軟式野球部7名、吹奏楽部21名は全て女子です。

織田中学校については、7つの部活動に84名が所属し、内訳としては、男子バレーボール部9名、女子バレーボール部12名、女子卓球部13名、軟式野球部11名、男子ホッケー部17名、女子ホッケー部7名、吹奏楽部15名で、うち男子1名、女子14名です。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） ありがとうございます。

越前町4中学校の部活状況では、越前町の中学校トータルの部活では野球部、卓球部男女、ホッケー部男女、バレー部男女、ソフトテニス部男女、剣道部、吹奏楽部、美術部、陶芸部で、種類としては運動部11、文化部で3種類となっており、中学校によって人数のばらつき、部活の種類のばらつきがありました。運動部でいうと、越前町には地域スポーツクラブとしてえちぜんスポーツクラブがありますが、中体連の地区大会には参加しておらず、部活の選択肢とはなり得ない状況であります。

少子化が進み、生徒数が減少する中、運動部の種類が少なくなり、特に団体競技の場合には1中学校単独でチームが組めない状況が出てまいります。このままでは部活動が持続的に継続、存続していけず、これに対応するため、部活動の地域クラブに委ねる、地域移行を進めていく状況になっているのは、今述べたとおりでございます。その前段階として、本年度から運動部の中体連大会に参加が緩和され、民間クラブの出場や中学校合同チームが参加できて、オープン参加じゃなくて、通常の参加として認められるようになりました。

ここで質問いたします。6月に開催された鯖丹地区中学校夏季総合大会において、越前町中学校の全体の参加状況はどのようなものでしたか。お教え願います。

○議長（佐々木一郎君） 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（高木剛彦君） 教育委員会事務局長、高木です。それでは、お答えいたします。

各中学校の全運動部が鯖丹地区中学校夏季総合大会に参加をしましたが、軟式野球競技については部員の減少に伴い、朝日中、越前中、織田中の合同チームでの参加となりました。また、今年度から部活動以外のクラブチームの参加が認められ、町内外の中学生が所属する越前クラブが軟式野球競技に参加しました。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） 今回、野球の競技における民間クラブチーム、3校合同チームの参加については賛否両論があるかと思いますが、この場ではあえてそのことには言及せずに、違う観点からこのまま質問を続けたいと思います。

中学校の部活は、連帯感や協調性を育むための教育的意義が当然に大きいです。しかし、反面、小さい頃から自分の好きなことをやってきたことを伸ばし、その成果を大会で発揮することで満足を得るものであります。心身ともに一番充実していく中学時代に、勉強以外でも自分の可能性を発揮したい中学生は、越前町でも多くいると思います。今でも自分のしたい部活動のために親元を離れて中学生生活を送っている中学生もいると、越前町には聞いております。地域的に交通の便があまりよくない当町において、できれば越前町内で解決できる体制づくりが重要だと思っております。

ここでまた質問いたします。部活の地域移行が動き出すはるか以前から私は、なぜ越前町の中学校3校もしくは4校でチーム越前町として全ての部活動に参加可

能とできるようにならなかったのかと感じておりました。そうすることで、部活の種類も増え、校区外だからできない部活も可能になるのではないかと。もちろん以前はそのような合同チームは中体連の大会に参加できる体制ではなかったと思いますが、小規模校の生徒にとっては悲しい現実だと感じておりました。民間クラブへの部活の地域移行の越前町型として、部活に関して町内4中学校の部活を統合して、学校という立場で民間クラブを設立し、運営していくことを考えることはできないものなのでしょうか。所見をお聞かせ願います。

○議長（佐々木一郎君） 教育長。

○教育長（出口俊一君） 教育長、出口です。それでは、私からご質問にお答えをいたします。

学校という立場で民間クラブを設立することはできませんが、4中学校の部活動を統合して運営できる受け皿となる団体や指導者が確保できれば、施設を活用するなど、学校と連携しながら運営することは可能であると考えます。町としましても、4中学校それぞれの地域移行には4つの受け皿となる団体、また、最低4人の指導者が必要となり、その確保が困難な場合、また、部員数の減少が見込まれる場合には、生徒や保護者の意見を踏まえ、4中学校のうちの1校を拠点校とした運営体制も視野に入れながら、検討委員会で協議してまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） 中学部活動の地域移行に向け、国のモデル事業として、鯖江市が先行して活動を具体化しております。生徒からの観点で考えると、鯖江市の中学校は3校あり、そのうち2校は大規模校、1校は適正規模であり、個々の中学校単独においても部活動の種類や運営面は何ら問題がないように思われます。まさに教師の働き方改革の観点からのこの活動だと思っております。しかし、越前町は全ての中学校が小規模校であり、再編が進まないのであれば、部活の統合、4中学校合同での活動、部活指導員の増強もありと考えております。

中学校の部活については、私の子どもが中学に進学したときに実感した、また、他の父兄、生徒からお聞きしたことを申します。一つ、スポ少で頑張ってきたが、中学校にその部活がなく、未経験の部活に入部した。一つ、中学生になったら部活で頑張りたいと思ったが、入りたいと思う部活はなかった。一つ、せっかくやりたい部活に入ったが、顧問の先生が専門でなく、競技力向上が期待できない。一つ、親や友達が進めるので、やりたい部活でなかったが、断れず入部した。一つ、スポ少でバスケットをやっていたが、中学校にはなかったため他の部活をしたが、高校でどうしてもバスケットをやりたいと入部したが、中学の3年間のブランクは大きく、経験者についていけず退部した。確かにないものねだりはすべきではないのですが、子どもたちの可能性を広げることは、地域の住民として、子の親としてもできる限り希望に沿ってあげたいと感じます。

特に、私、高校時代、バスケットをちょっとかじっていたことがあって、今ワールドカップで大変盛り上がりおるので、せめてバスケットなんかもできたらいいなという個人的な考えもありました。

昨年の9月での一般質問でお聞きしましたが、再度、今後越前町の中学校部活に対する民間クラブの地域移行に対する青柳町長の所見をお聞かせ願います。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、お答えいたします。

部活動は体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で生徒同士

や教師等との人間関係の構築を図ったり、生徒の多様な学びの場として大変重要だと考えております。また、生徒たちの3年間は、生涯にわたってスポーツや芸術に親しむための基盤となる大変貴重な期間でもあります。しかしながら、加速する少子化に加え、競技技術等の専門性の要求など、生徒や保護者の多様なニーズも高まる中、従前と同様の運営指導体制を継続することは一層厳しい状況となっております。

本町においても、部員数の減少により単独校での練習が十分にできない部活動については、今年度から一部の競技において中学校合同での練習を実施しており、現在、メリットやデメリットの検証をしているところです。全国でも民間クラブへの地域移行の取り組みが進んでいるところですが、本町においては学校の規模、部活動の規模が小さく、指導者や受け皿となる団体の確保等が非常に難しい状況です。それらの問題を解決するため、早急に検討委員会を設置し、本町の実情に応じた地域移行に向けて取り組んでまいります。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） ありがとうございます。

今後、検討委員会を設置して運営していくということなので、お願いがあります。まず、他の市町がこうやっているからということではなく、越前町の実態、全ての中学校が小規模校ということ considering 部活動の地域移行をお願いしたい。それと、できましたら、可能な限り生徒目線での持続可能な部活動の越前町型部活地域移行を考えてもらいたいと思います。

先月、大学の部活に関するニュースが世間をにぎわせており、そこに学生ファーストみたいなことを言っていた大学関係者がおりましたが、私個人的には、しよせん大学生は成人であり、自己責任において責任を取るべき年齢であります。しかし、中学生はまだ10代前半であり、自分自身ではどうすることもできない年齢です。部活の地域移行については、学校の働き方改革を踏まえた上での部活動改革という視点があり、全てを生徒ファーストで推進していくことは難しいと思いますが、今回、生徒目線からの部活動改革で示しましたので、今回の提言となっております。

学校での民間クラブは先ほど、なかなか難しいということでありましたが、先ほど述べましたとおり、越前町の中学校は全て小規模校であることから、4中学校全ての部活を合同で運営することで部活の種類も増やすことができますし、先生方の負担も多少軽減できると感じております。チーム越前町連合校として、越前町の中学生のモチベーションを上げてもらったらどうでしょうか。

先般、国は部活動地域移行に49億円の予算を計上したとの報道があり、全国でモデル事業を拡充するとの方針とのこと。また、24年度には先進的な取り組みを行う自治体を重点地域に指定することの計画もあるとか。先進的なモデル事業として、越前町型部活の地域移行、つまり民間クラブ等の概念でなく、あくまでも中学校を主体とした越前町という一体感での地域移行を国に指定してもらうことで、財政面においても有効であると思います。それが、私が切望する越前町型部活の地域移行であります。国が考える部活の地域移行の概念とはちょっと違うかなとは思いますが、越前町という小さな自治体ではこのような地域移行の考え方もあると思いますので、頭に入れていただきたいなと思っております。

今後、検討委員会設置後、ぜひ1つの案として検討を願います。まさに昨年教育長が申しました、主役となる子どもたちにとってベストな環境を整えることがで

きるよう、本町の实情に応じた形で、中学生が充実した学生生活を送れるよう、越前町としても速やかな推進を切にお願いいたします。

先般、福井新聞のニュースで、丹生高校のホッケー部がアンダー18の全国のリーグ戦に参加して、試合数が増えて競技レベルがアップするという記事が出ましたが、大変喜ばしいことと思います。でも、他の競技をしている子どもたちにとって、また、他の競技がしたくてもできない子どもたちにとっては、じくじたる思いもあるのかなという思いがあります。ですから、3年間、短い期間、人生80年、90年かなと考えたら3年間なんですけれども、その間本当に中学生がやりたいことをやらせてみて、可能性を伸ばしたらどうかなと思いますので、またひとつよろしくお願い申し上げます。

次に、小中学校の再編について、スケジュールについて質問いたします。

今まで幾度となく一般質問や個別で問合せしている小中学校の再編統合について質問いたします。次の2点質問いたします。

1点目、小学校の再編統合の日程、方策であります。越前地区での再編については先週の新聞記事で内容等確認できましたが、他の地区の状況等も含め、再度現時点で町として回答できることがありましたら、お教え願います。

2点目、中学校の再編統合の日程、方策についても、現時点で町として回答できることがございましたら、お教え願います。

○議長（佐々木一郎君） 教育長。

○教育長（出口俊一君） 教育長の出口です。

まず、小学校につきまして、朝日地区の朝日小学校と常磐小学校の再編につきましては、現在、地区説明会等を開催しながら協議を進めております。当初の基本方針では再編時期を令和6年度としておりましたが、期間的にも令和6年度の再編は困難であるため、令和7年度以降の再編に向けて引き続き協議を重ねてまいります。また、朝日小学校と糸生小学校の再編につきましては、当初の基本方針案では令和11年度としておりましたが、状況によっては前倒しを検討することも含め、時機を見ながら準備委員会の設置など、協議を進めてまいりたいと考えております。

越前地区の四ヶ浦小学校と城崎小学校の再編につきましては、当初の基本方針案では令和9年度としておりましたが、地区説明会等におきまして前倒しを希望するご意見が多かったため、先月、8月31日に再編準備委員会を設置し、令和7年度の再編を目標として協議を開始させていただいたところです。こちらは、先ほどの議員の質問の中にもあったとおりでございます。

織田地区の織田小学校と萩野小学校の再編につきましては、当初の基本方針案のとおり令和8年度を目途に、遅れることなく来年度には再編準備委員会を設置し、協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、中学校につきましてですが、当初の基本方針案では令和13年度以降に宮崎中学校、越前中学校、織田中学校3校の再編の検討を始めることとしておりましたが、地区説明会等におきまして、こちらでも前倒しを希望するご意見が多かったため、今年度、中学校再編検討委員会を設置し、協議を進めることといたしました。

現時点での状況は、以上のとおりです。

○議長（佐々木一郎君） 吉田憲行君。

○3番（吉田憲行君） ありがとうございます。

先週かな、テレビで見えていましたら、全校生徒17名の小学校が廃校になるので、

テレビ番組の企画として航空写真を撮るということで、地区の人らが一体になって撮ったんですけども、その全体像が映ったときに、その小学校がすごく山の中であって、近隣する小学校がないと。なかなかひつつく小学校もないという状況やったんですけども、越前町に関しましては、この狭い土地で8つも小学校があるということ自体、今後人口が減っていくということ自体を考えますと、ちょっとまだまだ進展が遅いのかなと個人的には思っております。

再編に関して、保護者の方とか地区の方への丁寧な説明も含め、時間がかかるとはおおむね理解できますけれども、いま一度子どもの目線に立って、今、再編すると言っても、今から3年後やったら、もう小学校卒業してしまうとか、中学校を卒業してしまうということがありますので、再度スピード感があつた推進をこの場をお願い申し上げます。

また、小中学校の再編の進行状況について、町民への報告等は随時広報していただきたいと思います。ホームページには載せてあるんでしょうけれども、なかなかホームページまで見る方も少ないので、こういうふうに進んでいますよと、やっぱり保護者の方と話すとな不安がっています。直の地元の方でも、いつになるんやろう、どうなるんやろうと不安がっていますので、再度細かく、区からでも結構ですので、広報していくよう、町からもよろしく願いいたします。

最後に、政策等を進めていく上でのお願いがあります。今まで、昔からこのようにやっているからといった理由だけで、現状に合わない方策を講じることがあると感じます。時代は複雑に進行しております。過去において想像し得ない事象が起きております。今の異常気象に関しても、もうこれからは異常気象でなくなる可能性もあります。当たり前の時期になると思います。今後は時代に即した、そして、持続可能となり得る施策、スピード感を持って対応をお願いしております。これはあくまでも私個人の考えでありますので、他意はありませんが、昔からこうなっているんやで、こうするんやということだけは今後、時代に即していないので、やめてもらいたいと。

それと、最後に時間がまだ余っているので、1点だけお願いがあるので、報告ですね、新幹線が開通して今盛り上がっているんですけども、僕は見に行っていないんですけども、ある越前地区の町民の方が、福井駅のモニュメントで恐竜が越前がにを食べているモニュメントがあるぞと。吉田さん、あれどう思うと。ジュラ紀に越前がになんかいたんかと。文献を見たら、カニの仲間はいたけれども、越前がには当然いませんと。あれを見たら、恐竜が越前がにより強いと。まさに新幹線の恩恵が越前町はなかなか少ない中で、あのようなモニュメントがあると、私はちょっとモチベーション下がるわというふうに言われました。僕は見に行っていないので、本当にあるかどうかというのもちょっと定かではないんですけども、それぐらいみんな今、新幹線開業に対して敏感に反応しております。

これから広報もあつて、もしかしたらそのモニュメントをニュースなんかで映ると、あら、恐竜のほうが強いんやなど、なら、強いほうに行こうかなと行って、勝山にみんな行ってしまうと、越前町に行かないということも考えられると思いますので、その点含めて、越前町もしっかり検証して行って、もしここにいる人で時間があるにしたら、何か駅から見られるところにこういうモニュメントがあるかないとか言うてましたので、また見て、もし意見があるんやったら、私か町のほうに言っていたいで、今さら取消しはできないと思いますけれども、県の仕事か、福井市の仕事かというのは定かではないんですけども、そういう意味ではせっかく3月16日にも開業というのが報告されて、武生の駅も日に2本

か、かがやきが止まるというちょっといい情報もありましたので、そういった意味では町を挙げて、町民を挙げて、一体となって越前町を盛り上げていきたいと思っておりますので、またひとつ来年に向けてよろしく申し上げます。

将来の子どものために、持続可能な政策運営をひとつよろしく申し上げます。

ここで、私、令和5年9月定例会において一般質問を終わらせていただきます。長々とありがとうございました。

(午前11時7分終了)